



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 243

2017/02/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

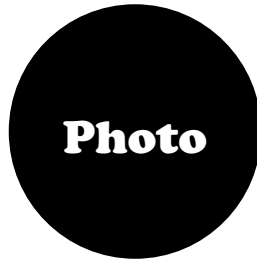
GREEN COLUMN

01. 可愛らしい石偶

02. 美術鑑賞に出かけよう



今月の一枚



「巨大なつらら」

表紙写真・文／八重柏誠

美幌町は朝の気温がマイナス 20℃以下に冷え込み、冬本番といった状況です。そのような中、博物館の屋根から垂れ下がっている巨大な「つらら」が博物館職員の間で話題になっています。

普段見られないほどの大きさに育った「つらら」をパチリ。例年ですと、屋根に積もった雪はすぐに落ちてしまうので、これほどの大きさにならないのですが、今年はどうやら屋根から雪が落ちにくいようです。危険なので早く落ちて欲しい「つらら」です。

Event. 今月のイベント

企画展「平成 28 年度 冬季作品展」 2月4日(土)～3月5日(日)

プチ工房「手作り石けん」 2月9日(木), 16日(木)

モノ作り講座「アクリル標本を作ろう」 2月11日(土), 18日(土)

Information. 参加者募集

プチ工房 「手作り石けん」

● 2/9(木), 16(木) 10:00 - 12:00, 14:00 - 16:00 自由に入室。作品ができたら終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費(200円) ●城坂結実(美幌博物館) ●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

モノ作り講座 「アクリル標本を作ろう」

● 2/11(土), 18(土) 9:00 - 12:00 ●美幌博物館 1F 修理室 ●材料費・保険料(900円), [2/11] 筆記用具, [2/18] 汚れてもよいタオル2枚, エプロン ●鬼丸和幸(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(2/8まで)。小学4生以上で両日参加できる方、定員8名で締切。キャンセルは2/8まで。それ以降は保険料100円がかかります。

ご自宅に古い写真ありませんか？

博物館では展示会で使用するため、明治～昭和に美幌町内の様子を写したなつかしい写真や映像を探しています。寄贈もしくは複写させていただける方は、博物館までお電話ください。寄贈・複写させていただいた方には、1名様が無料入館できる「招待券」を差し上げます。

今月の休館日

6日, 13日
20日, 27日

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN グリーンコラム

.....

可愛い せきぐう 石偶

写真・文／八重柏誠



先日、収蔵資料の整理をしていると、可愛い石器がでてきました。異形石器の一つ「石偶」です。1987（昭和62）年に元町3遺跡の予備調査をした際に採集されたもので、大きさは縦2.65cm、横1.65cm、厚さ0.45cm、黒曜石で作られた石器です。大きめの頭に手足を表す小さな張り出しが4ヶ所あるのがわかります。見た目は、どこかのゆるキャラのような印象も受けます。元町3遺跡では、本発掘調査でも石偶が2点出土していますので、これで3点目となります。

それでは、この小さな石器は何のために作られたのでしょうか。それは、現代の私たちにはわからない、永遠の謎といえます。わかっていることは、実用的な石器ではないということです。実用的な石器であれば、石鏃せきぞくやナイフのような、共通性のある形のものが一定数作られます。一方、石偶は、出土

量が非常に少なく、ありふれたものではありません。

数少ない出土例の中で、北見市常呂町ところの常呂川河口遺跡の石偶は、使い道を考える上で、大きなヒントを与えてくれます。この遺跡では、お墓の副葬品として石偶が出土しているのです。さらに、琥珀玉こはくだまも出土しています。偶然にも、元町3遺跡のお墓からも琥珀玉が出土しており、出土している土器の形式から、2つの遺跡の時期は同じ頃と思われます。もしかすると、美幌町の石偶もお墓の副葬品として作られたものなのかもしれません。副葬品として作られたのであれば、大量生産されないでしょうから、数が少ないのも納得がいきます。人の形をしたものを墓に供えることにどんな目的があったのでしょうか？人身御供ひとみごくうのようなものなのでしょうか？やはり不思議な石器です。

美術鑑賞に 出かけよう

文／金坂園子



今もよく覚えています。大学に入って間もなく受けた衝撃のことを。

「この仏像は、ちょっと“おでぶさん”なのですが」「この“ハダカのねーちゃんが”」

聞いたこともないような単語がいっぱい出てくるに違いないと、緊張とともに出席した美術史の授業。映写した平安時代の仏像や15世紀イタリアの絵画を前に、美術史研究者でもある先生たちが繰り出す、実感のこもった言葉の銜^{てら}いのなさに驚き、また、思わず笑ってしまうことがしばしばありました。（その後、造形表現の特徴や分析といった、少々複雑な話題が続くことになるのですが…）

「美術鑑賞」って、何だか難しそうな、かしこまった響きがするかもしれませんが。けれども、作品を見るのに、過度の緊張は大敵です。

まず、作品を見て感じたことを率直に口に出す。学生たちを授業に引き込む先生たちの工夫は、鑑賞にも使えそうです。いきなり難しい言葉を言おうとするのではなく、まずは自分のつぶやきを拾ってみる。そう考えると、リラックスできませんか？

例えば、こんな具合に。作品を見て「この人は、今夜何を食べようか考えているのかな」と思ったら、次に「どうして自分はそう感じたのだろうか？」「作品のどこを見て、そう思ったのか？」と、考えてみる。考えながらじっくり作品を見ているうちに、人体表現が実際より誇張されていることに気づいたり、作品の独特な魅力を発見したりするかもしれません。

気軽に楽しく。美術鑑賞に出かけてみませんか？

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253-4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



昨年 10 月から勤務しています。これからどうぞ宜しくお願いいたします！初めて担当した美術コレクション展を先日無事に終え、ほっとしたのもつかぬ間、順調に下がりゆく気温…横浜出身なので、北海道の冬はとても新鮮で、驚きがつきません。最近の楽しみは、雪上の黄色の過密地帯…犬たちの人気(?) スポットを見つけながら散歩することです。(金坂)